

## 日本あちこち河川遡行記（第262回）

奈良1-3. 佐保川（その1） 令和1年5月10日（金）晴

竜田川の次の川を「佐保川」としていつものこだまに乗り出かける。新大阪、難波、大和西大寺と乗り継ぎ近鉄橿原線の「ファミリー公園前」駅に降り立つこの駅は大和川本流遡行時に帰路に利用した駅である。駅前広場に絵地図が有る。公園のてっぺんが大和川と佐保川との合流点で、今日は右側の公園と川との間に有る県道109号をてっぺんに向かい、最初の橋「高橋」から遡行を開始する。



01.今回調査区間位置図



02.駅名と案内地図の公園名が違うぞ

駅名では「ファミリー公園」であるが絵地図では「まほろば健康パーク」となっている。変だなと思い帰宅してから調べると、ここは元は「浄化センター公園」としていたが、イメージが良くないと思ったのか「まほろば健康パーク」と変えたようだ。浄化とまほろばではえらい違いだな。臨時駅として先ず開業させ、その後普通の駅とした近鉄の方が先取りしていたのだ。

公園には大勢の幼児がやって来ている。ここなら年寄りが運転する車に引き殺されることもなく安心して遊ぶことが出来るだろう。最近、年寄りが事故で若者や子供たちを殺すことが多発している。世の中逆になってしまっている。免許更新時にはもっと厳格な科学的な適正検査をするよう改正すべきである。75歳以上の方は原則免許更新を受け付けず、公共交通、特にバス利用に転換させ、バス等の拡充をはかるよう社会を変えていく必要を感じている。



03.ここなら車は突っ込んで来ないよな

県道を西に向かうと川名を書いた大きな国交省設置の川案内標識が立っている。「さほがわ」と読んでいるが、「さほかわ」の方がさほの優しい響きが生かされる。ハ行とマ行の言葉は耳に心地よい優しい響きが伝わる。

高橋の上から合流点を見るが水量が少なく分かりにくい。



04.「さほ」、優しい響きの大和言葉だな

05.最初の橋から合流点を見る

右岸側に渡り土手道を上流に向かう。道は河川管理用道路で入り口には柵が設置され車は入れない。安心して歩ける土手道である。全国の大きな川の土手には道路が設置されているが、河川管理上は車が多く通る道は好ましくなく、これらを土手下に移す計画を早く始めてほしいと思っている。その後は自歩道としてウォーキングなどの大規模歩道にしてほしい。車から歩きに年寄りを変えていくべきだ！



06.広い河川管理用道路に我一人

東からの流れが北に変わりだすと近鉄橿原線の橋が現れる。管理路はここで一旦切れ、土手下には道が無い。仕方なくのり面のブロック張りを後ろ向きに恐る恐る降りて行く。川には河川敷が無く、そのため階段も無い素っ気ない川である。これで国管理は無いぜよ。桁下を潜り再度ブロックをゆっくりと登り土手道に上がる。上がると直ぐに京都行きの特急が橋を通過して行く。



07.近鉄橿原線の橋に差し掛かる



08.桁下を潜り土手に上がって来ると特急通過

次の幅の狭い橋を診てすぐに今度は天理線の橋と出会う。こちら管理路は行き止まりであるが土手下に道路が有り、そこに繋がる斜路があるので一旦下に降りる。橿原線から天理線が分離する「平端」駅がすぐ北西にあり土手からは良く見える。





09.続いて天理線の鉄橋に来ると

天理線は支線であるが複線で4両編成の電車が行き来している。当方が住んでいる岡山の山陽本線は日中3~4両編成の電車が走っているが、その使い分けが不可思議でかつ混む。最近では倉敷に向かうユーを含めた観光客が多くいつも混んでいる。民営化されてからは昭和時代のお古の寄せ集めに満員の客を乗せて平気な顔をしているJR西はおかしい。岡山県民はおとなし過ぎるぞー。競争相手のいる京阪神奈和では新車投入と速度向上を進めているが、競争相手のいない独占路線ではなんら改良も成されず、収益向上が第一になっている。

川は徐々に北からの流れとなる。管理用道路には並木が無く太陽光を遮るものはなんちゃ無い。次の県道193号の「三郷橋」の袂近くに大きな石柱が保存されている。道の分岐部に有った道路標識で、「右郡山京」、「左法隆寺、竜田、高田」と読める。郡山を京と言っているぞ。それとも遥か彼方の本物の京なのか？橋は最近架け替えられたような無塗装橋であるが親柱は昔の物を転用している。流石奈良だな。



10.橋際に大きな石柱の道路標柱を



11.架け替えられた「三郷橋」には昔の

保存

親柱を転用

次の県道 193 号バイパスの「三郷大橋」を越えると管理用道路の柵の横に「京奈和自転車道」と書かれた標柱と自歩道の標識が立っている。ここから先は大規模自転車併設の道となる。足元には「和歌山港 113.0km」と表記も書かれている。ホンマかいな？和歌山港まで続いているのかな。調べてみるとここは自転車道の先行区間でこれから整備を進めていくようだ。誇大表示でんな、公正取引委員会から怒られるぞ。



12.管理用道路は京奈和自転車道として 13.和歌山港！ホンマに行けるんかいな  
併用

自転車道になってもベンチも木陰も何にもなく、有るのは道路標示の区画線と一部青色線が描かれているだけで、河川事務所におんぶにだっこである。土手道にはあの紫色の小花が止めなく咲いている。勝手に川沿いに広がったのだろうか。快晴の太陽の元この小花だけが歩く気力をくれる。



14.土手道の両側はこの花がいつまでも続く

やがて桁が青空色の「西名阪道」の橋が川を越えている所に着く。川の東側を南北に通る「京奈和道」と繋ぐジャンクションのランプウェイが本線の両脇に並走している。土地の狭い日本では河川は広い土地が必要な連絡施設設置には欠かせないエリアなのだ。



15.西名阪道が川を越える

自転車道は国道 25 号の「井筒橋」に来ると右岸側から左岸側に移り、当方も橋を渡り左岸に移動する。ここまで昼を撮るためのベンチと木陰を探していたが何も無く、仕方なく土手道の縁石に座りコンビニお握りを食べることにする。寒い時期にお握りは寒々しいので控えていたが、暖かくなったので復活だ。

6分の休憩で遡行を再開し北に進む。人も自転車も来ない広い土手道を黙々とひたすら歩く。変化の無い景色に飽きてくると奈良市南部から流れて来た「地藏院川」が合流してくる。直角合流では無く暫し平行したのち合流する本格派である。反対側の別の川に設置されている水門の上には奈良の建物風の小屋が乗っかっている。無理してる感じが否めない。



16.「地藏院川」が合流



17.水門の上には奈良風の建物を載せている



「稗田橋」で自転車道と別れ右岸側に向かう。区画線の無い普通の管理路を進む。東の彼方の北部にはこの川の源流部の春日の山が霞んでいる。久しぶりに見る林が土手に迫り、そこを越えると土手下に多くの土饅頭が狭い範囲に固まっている。饅頭の上には木片と枯れた花が置かれている。ここは土葬の墳墓なのだろうか？



18.「佐保川」は彼方の山の裏（東）から流れている

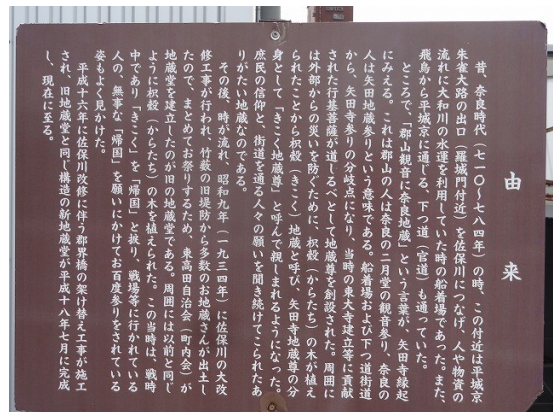


19.多くの土饅頭が固まっている

やがて今日の折り返し点の「郡界橋」に着く。県道 144 号の北側の土手道沿いに新しい地蔵堂と屋根付きのベンチが有る。最後に来てベンチ現る！『遅かりし郡山のベンチ！』。せっかくなので座りしばし汗を拭う。ベンチの裏にはこのお地蔵さんの由来が書かれている。由緒正しき古い地蔵群なのである。



20.最後に現れた座れる場所はお地蔵さんだった



21.このお地蔵さん達は由緒正しき像なのだ

10分ほど休憩し 500m 西にある JR 郡山駅に向かう。狭い県道を歩き駅に着きホームに向かうと直ぐに大和路快速がやって来て 1 両目の前の座席に座り帰路につく。天王寺でドット乗ってきて次の新今宮でドット降りて行く。一番前

が南海線との乗り換えに便利なのだ。

本日の歩行距離：9.2km。調査した橋の数：15。  
総歩行距離：10,416.9km。総調査橋数：13,190。  
使用した 1/25,000 地形図：「大和郡山」